

**大河原地区の研究のまとめ**  
**「生活で活用できる力」の育成を目指して**  
**～「つながり」を深める指導の工夫～**

大河原地区教育研究会技術・家庭科部会  
 研究部長

川崎町立富岡中学校 教諭 安田 弘秋

1 はじめに

平成28年度の大河原地区技術・家庭科研究部会では、県の研究テーマに沿って「生活で活用できる力」の育成を目指して～「つながり」を深める指導の工夫～を研究主題として取り組んだ。

情報化社会の急速な進歩により、日々変化を遂げる現代社会において、生活に活用できる力を身に付けさせることは急務である。そのためには、実生活につながる学習課題を設定しながら、課題を解決していくことで、生活を工夫し創造する力を付けさせることが重要である。

そこで、大河原地区では、技術・家庭科の教科の特性を考えると、実践的かつ体験的な学習活動が重要であり、生徒の発達段階や地域の特性を生かした教科指導が必要であると考えた。つまり、教材研究や教具の開発、授業研究に取り組むことで、生徒の「生活で活用できる力」を育成し、生活とのつながりを深める指導の工夫に迫っていきたいと考えた。

2 研究のねらい

地域に在住している外部の方々の情報を把握することで、技術・家庭科の指導内容の特性に応じて、その人材を有効に活用したい。つまり、指導者側からもより研究を深めていかなければ、生徒の関心を深めることは難しいと考えた。そこで、生活につながるのある題材を設定し、学習を展開することで、「生活で活用できる力」が育成できるのではないかと考えた。

3 研究の内容

(1) 事業計画及び研修計画

月	主な内容	会場
5	○大河原地区中学校教育研究会研究部総会 ・組織作り（役員決め） ・事業計画、予算の確認など ・研究の方向性について	円田中
	○県第1回役員会・研究推進委員会	住吉中
8	○大河原地区第1回役員会 ・県大会役員会の報告 ・一斉研究会について	金ヶ瀬中
	○県第2回役員会・研究推進委員会 ・県大会の運営計画について ・研究の進捗状況の確認	住吉中
10	○第55回全日本中学校技術・家庭科研究大会(旭川大会)	旭川市
	○大河原地区中学校教育研究会一斉研究会	大河原中 アイリス オーヤマ
11	○第56回東北地区技術・家庭科研究大会	八戸市
	○第58回宮城県中学校技術・家庭科教育研究大会	河南東中
2	○県第3回役員会・研究推進委員会	住吉中
2	○第2回役員会	金ヶ瀬中

## (2) 実践内容等

大河原地区技術・家庭科研究部一斉研究会

日時 平成28年10月26日(水)

9:00～

場所 午前：大河原町立大河原中学校

午後：アイリスオーヤマ株式会社

午前の部では、調理実習の研修を行った。地域で活躍されている方々を外部講師としてお招きし生パスタの麺づくりから指導していただいた。

外部講師

①目黒浩敬先生

・フードディレクター

②佐藤剛先生

・放牧養豚業(たけし豚)

③佐藤裕貴先生

・お米クリエイター(専業農家)



図1 外部の講師をお呼びしての調理実習



図2 生パスタの麺づくりの様子

講師の3名とも地産地消の大切さを信念にもっている方々で、食に対する指導の大切さを改めて感じさせられた。

午後の部では、大手企業のアイリスオーヤマ株式会社を訪問させていただき、製造工程や工場の内部、開発商品などを見学させていただいた。



図3 アイリスオーヤマ株式会社の外観



図4 企業の概要説明を受けている様子

## 4 研究のまとめ

大河原地区では地元の企業や農家などから、技術・家庭科の領域で指導できる内容を模索し、実生活とのつながりを意識した指導につながる研究を進めてきた。教員対象の研修会から人脈を広げ、授業での指導場面においても人材や材料で生かすことができる一斉研究会となった。

今後の課題は、このような一斉研究会の場だけでなく、指導の悩みや課題を共有できるようなネットワークを広げていき、教員だけで解決していくのではなく、地元のプロフェッショナルの方々にも協力していただける協働教育にも力を入れていきたい。